

建設大臣賞

都市計画道路 宮渕新橋上金井線 改良事業

(松本市)

■表彰対象者：長野県松本市都市開発部

表彰の理由

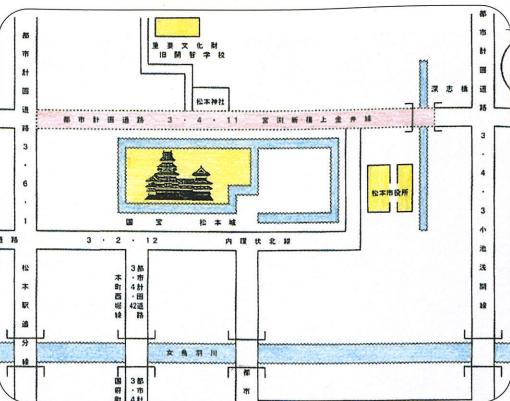
国宝松本城の景観と周辺環境の保全に配慮した道路構造やデザインに工夫がなされ、沿線地権者の協力により交通の円滑化と自然に優しい道路空間が創りだされた。



松本城と宮渕新橋上金井線

事業のあらまし

都市計画道路宮渕新橋上金井線は城下町松本を東西に貫く重要な路線であり、沿線には年間100万人が訪れる国宝松本城がある。この事業は、交通渋滞の解消並びに歩行者及び自転車の安全を確保することはもとより、国宝松本城周辺にふさわしい歴史と文化に配慮した景観整備を図るため、都市景観形成モデル事業として施行したものである。



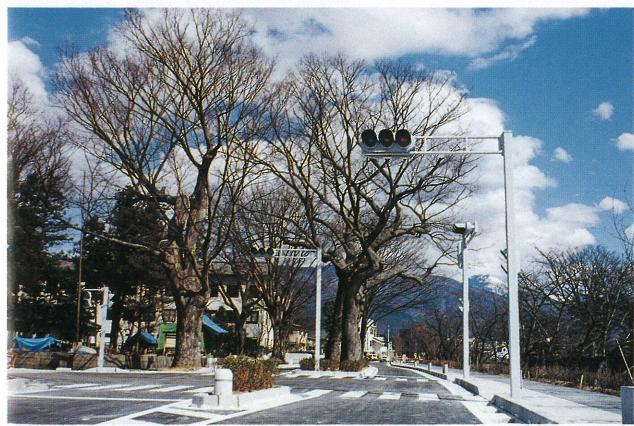
- 延長：765m
- 幅員：16.0～19.5m
- 全体事業費：3,100百万円
うち街路事業費：3,100百万円
- 事業期間：昭和59年度～平成4年度



中央分離帯と歩道に残した大ケヤキ



大ケヤキ遠景



大ケヤキ近景



歩道部夜景



整備前の深志橋



深志橋とゲート式信号機



歩道と架け替えた木橋

事業の効果

国宝松本城周辺にふさわしい街路として整備するために、松本城周辺デザイン委員会を設置して整備方針を策定した。歩道舗装は松本城のモノトーン構成を踏襲した白と黒を基調としたデザインとし、歩道内に松本城の土格子風な反射板による間接照明を設置する事で夜間景観に配慮した。また、地元住民の協力により電線を民地裏にまわして、無電柱化を図った。さらに、松本城に縁の深い松本神社の御神木を中央分離帯及び歩道内に保存し、歴史の保全と歴史のある文化財を保護することができた。